

# Inter BEE International Broadcast Equipment Exhibition

# 50回目の ファーストメッセージ 発信へ

展示ホールを増やした会場はゆったりと見てまわると好評



## 過去最多の3万8,000人が来場

東京オリンピックの翌1965年秋に民間放送連盟の呼びかけで「民放技術報告会」の併設展として12社の展示でスタート。その後、放送機器展という名称になり、1982年から国際放送機器展Inter BEEになってきた。

2014年開催は50年というメモリー開催で、出展者数も977社・団体で最多、来場者も最多という記録的な開催として11月19日から21日までの3日間行われた。

本誌はメディアパートナーのコーナーで、雑誌の宣伝と販売、そして株式会社ビデオ・テックの協力で「韓国4K事情調査ツアー」と「四十万マルチコプター実技講習会」の4Kレポートを30インチ4Kディスプレイで公開した。コーナーブースの人気者はマルチコプターの掌サイズのおもちゃのようなモデル展示だったかな。

また、恒例の本誌ブースツアーも実施した（コラム欄参照）。

各社からの提案は4K・8Kの次世代対応機種をはじめ、報道ファイルベースワークフロー、データ保管・アーカイブなど盛りだくさんに勢揃いした。そこからメーカー新提案を次号と2回にわたって特集する。

（レポート：吉井 勇・渡辺 元：本誌編集部）



50年を1度も欠かさず出展してきた NEC はブース内に誇らしく歴史をアピール

## 毎年恒例の 好評「編集部主催ブースツアー」

### ファイルベース・4Kなど7コースで開催

本誌編集部は毎年 Inter BEE で主要ブースを訪問するブースツアーを開催している。Inter BEE 2014 では、①ファイルベース+アーカイブコース、②4K カメラコース、③4K 編集ワークフローコース、④CATV・放送局最新システムコース、⑤小寺信良氏イチオシ！ブースコース、⑥・⑦NHK メディアテクノロジー創業30周年記念技術展コース

の合計7コースを実施した。

参加費は無料。各コース定員7人ほどの少人数制で、6、7社のブースをじっくり視察した。各ブースではこのツアーのために各社の説明員に解説してもらった。主要ブースを短時間で効率的に訪問できるので、毎年好評のツアーだ。2015年も旬のテーマで開催する予定。ぜひご参加いただきたい。

少人数制で効率的にじっくり視察できるのが好評

